

9. 予防接種を受けることができない人
- 1) 妊娠をしている女性および妊娠している可能性がある女性はワクチンを受けることができません。ワクチン接種後は少なくとも2か月間は妊娠できません。女性は接種前1か月程度避妊し、確実に妊娠していない状態で接種を受けることになります。
 - 2) ワクチンを受ける3か月以内にガンマグロブリン（血液製剤の一種で、重症の感染症の治療などに使われます）の注射あるいは輸血を受けたことがある人は、免疫が十分にできませんので、接種を受けることを延期する必要があります。また、大量のガンマグロブリンの注射を受けたことがある人は、6か月程度延期する必要があります。
 - 3) 生ワクチン（麻疹、風しん、BCG、水痘、おたふくかぜ、黄熱ワクチンなど）の後は27日以上、不活化ワクチン（インフルエンザ、四種混合（百日咳・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ）、二種混合（ジフテリア・破傷風）、日本脳炎、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、肺炎球菌ワクチンなど）の後は6日以上接種間隔をあける必要があります。
 - 4) 接種直前の体温が37.5℃以上であった人は、接種を受けることができません。
 - 5) 重い急性の病気にかかっている人は、接種を受けることができません。
 - 6) 風しんワクチンに含まれる成分でアナフィラキシーという重いアレルギー反応を起こしたことがある人は、接種を受けることができません。
 - 7) その他接種医が接種しない方が良いと判断した場合には、接種を受けることができません。

10. 予防接種を受けるときに注意が必要な方（※接種については接種医と相談してください）
- 1) 先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液、脳神経、発育発達の病気、悪性腫瘍など何らかの病気がある人
 - 2) これまでの予防接種で2日以内に発熱がみられた方、またはアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた方
 - 3) これまでにけいれんを起こしたことがある方
 - 4) これまでに免疫機能に異常があると言われたことがある方
 - 5) ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある方（接種医にお尋ねください）
 - 6) 薬や食べ物でアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた方
 - 7) 接種当日の体調が普段と違う方
 - 8) 周囲に1か月以内に麻疹、風しん、水ぼうそう、おたふくかぜにかかった人がいる場合
 - 9) 1か月以内に何か病気にかかったことがある方

11. その他注意すること
- ワクチンを接種した人の咽頭（のど）から接種1～2週間後にワクチンウイルスが出てくることがありますが、周りの人にうつることはありませんので、妊婦さんの家族の方が接種を受けられても心配はありません。むしろ、妊婦さんの家族で風しんの免疫をもっていない方は、平成30年からの流行を考えると、早めに受けておくことが推奨されます。
- 予診票はこれまでの様子を知るための重要な情報ですので、正しく記入しましょう。接種した当日の入浴は可能ですが、接種部位を清潔に保ち、激しい運動を控え、体調をよく観察しましょう。もし、何か気になる症状がみられた場合は接種医に相談しましょう。

12. 予防接種健康被害救済制度について
- 接種を受けたワクチンの種類によっては、けいれん、肝機能障害及び急性散在性脳脊髄炎等の健康被害が生じることがあります。このような健康被害を、厚生労働大臣が、予防接種法に基づく定期予防接種による副反応であると認定した場合は、市町村が健康被害救済に関する給付を行う制度があります。

令和4年度風しん抗体検査及び風しん第5期定期予防接種のご案内

山形村では、下記のとおり、風しん抗体検査及び風しん第5期定期予防接種を実施します。このお知らせをよくご覧になり、内容を十分ご理解の上、風しんの抗体検査及び定期予防接種を受けてください。

本事業における概要

厚生労働省は、平成30年の風しんの流行を受け、同年12月に、風しんに係る公的接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性に対し、風しん抗体検査及び予防接種（風しん第5期定期予防接種）を行うこととしました。この対策の実施期間は令和7年3月31日までとなります。

実施にあたっては、まず、風しん抗体検査を行い、検査結果が一定の基準を満たさない「陰性」の方が、風しん第5期定期予防接種の対象となります。

1. 検査・接種対象者

風しん抗体検査

検査日時時点で山形村に住民登録があり、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性

※ただし、次の（1）、（2）のいずれかに該当する方は、対象外です。

- （1）過去に風しんにかかったことがある方（医療機関等で検査により証明された場合に限る）
- （2）平成26年4月1日以降に風しん抗体検査を受け、かつその記録がある方

風しん第5期定期予防接種

接種日時時点で山形村に住民登録があり、次の（1）、（2）のすべてに該当する方

- （1）昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性
- （2）風しん抗体検査結果が「陰性」（過去に行った検査も含む）の方

※上記の風しん抗体検査（2）に該当する方のうち、検査結果が当該事業の判定基準に照らして「陰性」となる方は、風しん第5期定期予防接種の対象となります。

2. 検査・接種方法（抗体検査・予防接種共通）

実施場所 本通知に同封の「実施医療機関（松本地域）」または、厚生労働省ホームページ「風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関」で検索いただくと全国の実施可能な医療機関が掲載されていますのでご参照いただき、事前予約してください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-ka nsenshou/rubella/index_00001.html
 なお、風しん抗体検査については、職場の健診や特定健診の機会に受けることもできますので、職場等にご確認ください。

実施期間 **令和7年3月31日（月）まで**

※クーポン券は1年更新になりますので、有効期限が切れてしまった方は、再発行をいたしますので「いちいの里」までお越しください。

費用 原則無料

3. 検査・接種の際に持参する物（抗体検査・予防接種共通）

本人確認書類…生年月日や住所の印字があり、本人確認できるもの
 運転免許証、マイナンバーカードなど

クーポン券…本通知に同封しているクーポン券
 風しんの抗体検査受診票…本通知に同封している風しんの抗体検査受診票
 風しん抗体検査結果書類…抗体検査結果が「陰性」で予防接種を希望する方は、
 風しんの抗体検査受診票のご本人控え（抗体検査後に交付されます。）

次ページもご覧ください

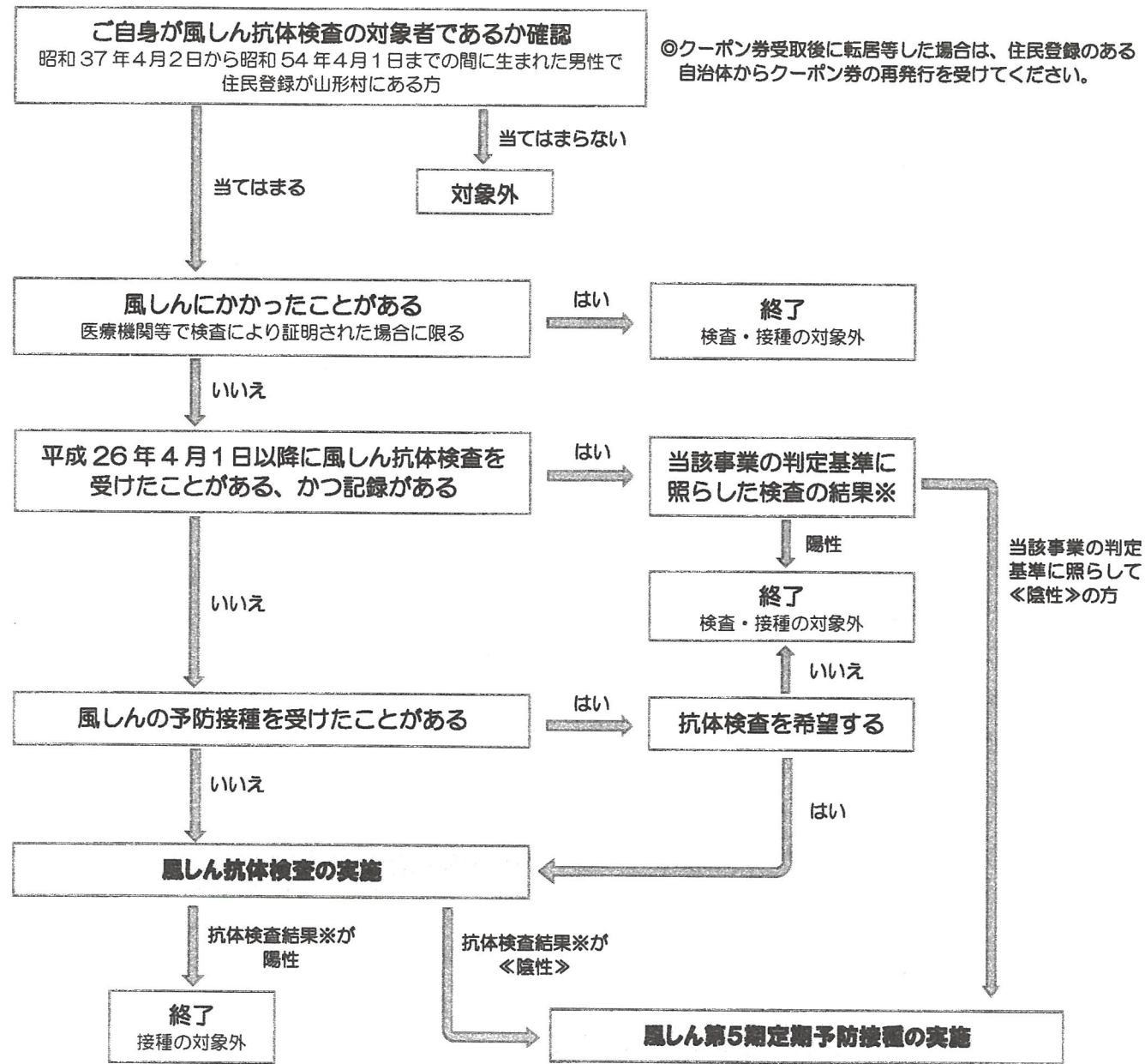
風しんの予防接種対象になった方へ

- ① 新型コロナウイルスワクチンを接種した後に、風しん予防接種を受ける場合は、**原則13日以上の間隔をあける必要があります。接種スケジュールに十分ご注意ください。**
- ② 接種間隔確認のために「**新型コロナウイルスワクチン予防接種済証**」が必要になる場合があります。医療機関にご確認ください。

◆◆お問い合わせ先 保健福祉課（保健福祉センターいちいの里内） ☎97-2100◆◆
 （午前8時30分～午後5時15分 土・日・祝日・年末年始は除く）

4. 検査・接種の流れについて

検査から予防接種までは、以下のとおりの手順で行います。



※風しんの抗体価基準値は、同封の風しんの抗体検査受診票の裏面に記載していますのでご確認ください。

※風しん抗体検査、風しん第5期定期予防接種は必ず実施医療機関にて行ってください。また、風しん第5期定期予防接種は原則風しん・麻疹混合(MR)ワクチンによる接種となります。

5. 検査・接種を希望される方へ

1. 風しんとは

風しんは患者さんの咳やくしゃみで飛び散るしぶき(飛沫:ひまつ)を介して感染するウイルス感染症です。風しんウイルスに対する免疫が無い方が感染し、2~3週間の潜伏期間の後に、発熱、発疹、リンパ節の腫れといった症状で発症します。通常、子どもでは3日程度で治る病気ですが、まれに、血小板減少性紫斑病(3,000人に1人)、脳炎(6,000人に1人)といった重い合併症がみられることがあります。

また、発熱などの症状が無い不顕性感染という病態が、感染者の30~50%程度にあると考えられています。

2. 大人が風しんにかかった場合の特徴

関節痛がひどいことも特徴とされています。1週間以上仕事を休まなければならない場合もあります。

3. 先天性風しん症候群予防のために

妊娠初期の女性が風しんにかかると、お腹の赤ちゃんも風しんウイルスに感染し、先天性風しん症候群とよばれる病気を持って生まれてくる場合があります。先天性風しん症候群とは、生まれつきの心臓病、目がよく見えない、耳がよく聞こえないといった、心臓、目、耳などに色々な組み合わせで障害をもつことがある病気です。妊娠週数が早いほど発生頻度が高く、調査によっては妊娠の最初の1か月では100%とされています。逆に、妊娠7か月(妊娠24週)以降では、0%と考えられています。

妊婦さんと一緒に生活しているご家族が、妊婦さんへの感染原因となりがちなことから、周囲の方が、予防接種を受けるなど、風しんにかからないようにしておくことも大切です。

4. 日本における風しんの流行状況

平成30年の風しん報告数は2917例で、平成20年の風疹全数届出開始以来、平成25年に次いで2番目に多い報告となりました。

なお、平成31年1月31日現在、先天性風しん症候群の報告数が1例あります。

参考までに、平成25年の風しん報告数は14,344例で、この流行に関連した先天性風しん症候群は45例確認されています。

5. 風しんウイルスに対する免疫

風しんとよく似た症状の病気はいろいろあるので、風しんにかかったことがある記憶だけで免疫があると考えるのは危険です。

逆に、不顕性感染があるので、風しんにかかったことが無い方でも、十分な免疫を持っていることがあります。また、予防接種が始まる前は数年に一度、近年でも2004年に、比較的規模の大きな流行があり、中高年者は、いつの間にか十分な免疫を持っている方が、思いのほかたくさんいらっしゃいます。国が実施している感染症流行予測調査の平成24年度調査の結果によると、成人の8割の方が十分な免疫を持っていることが判っています。

6. 風しんの予防

発疹症状の出ている方や症状が出る数日前の方、不顕性感染をしている方が感染源となるとみられています。風しんの特効薬は存在しません。予防接種によって感染前に免疫をつけることが最も有効な予防策です。

7. 風しんワクチンの効果

風しんワクチンを接種することによって95%以上の方が免疫を獲得しますので、ワクチンを接種してからであれば、風しんの患者さんと接触してもほとんどの場合発症を予防することができます。しかし、いつまで免疫が持続するかについては、獲得した免疫の状況や、その後の周りでの流行の程度によって異なります。

8. 風しんワクチンの副反応

子どもを対象にしたこれまでの調査では、接種後5~14日に発熱(37.5℃以上38.4℃未満が1.9%、38.5℃以上が2.6%)、発疹(1.3%)、リンパ節のはれ(0.6%)が報告されています。しかし、通常数日の経過で自然によくなります。風しんワクチンに限ったことではなくワクチン全般で言われることですが、稀に接種後30分以内にアナフィラキシーという重いアレルギー反応を認める方がいますので、接種を受けた後は少なくとも30分間、接種を受けた医療機関などで様子を観察してください。

風しんにかかった場合には3,000人に1人の割合で見られる血小板減少性紫斑病ですが、ワクチン接種後にも稀(100万人に1人程度)ではありますが、認められる場合があります。接種後2~3週間は副反応の出現に注意をしましょう。